



校報 水糸者

No. 871
29年度・第44号

家庭学習をしっかりとがんばろう！

～26日から「第1回小中連携家庭学習強化週間」が始まっています～

今年度第1回目の『小中連携家庭学習強化週間』の取り組みが、昨日の26日（月）から7月2日（日）の間、行われます。家庭学習については、今年度の教育振興・種市実践区とPTAわが家のまなびフェストにも掲げてる重点項目でもありますので、今年度も、種市中学校の期末テスト取り組み期間と時期を連動し、種市中学校と角浜小学校と共同で実施していくものです。ご家庭では、事前に配布している「家庭学習習慣取り組みカード」を使いながら、子ども達の実態に即した、自分のためになる家庭学習について取り組んでいただくようお願いいたします。

【これを設定した主な理由】

1. 学力向上にむけ、家庭学習の充実が岩手県の共通課題となっているからです。

⇒ 平成27年度～平成30年度・いわて県民計画第3期アクションプラン

☆学校の学びを基に授業以外の学習に自立的に取り組む児童生徒（小5、中2、高2）の割合



	26年度	27年度	28年度
2時間以上	18%	19%	19%
1時間未満	39%	39%	38%

県教委の
データより

2. 家庭学習を通じて、学習する「習慣」や「自ら学ぶ心」、「自律・自立心」等も養ってきたいからです。



「学び」は学校生活だけで終結するものではありません。一生学び続けなければいけません。小学校の時から学習する習慣や自ら学ぶ力が身に付いている子は、中学校でも高校でも、社会人になってからも苦労は少ないはずです。

3. 学力の定着・向上には**3つの連動**が必要だからです。

3つとは、「授業」＋「朝学習（かがやきタイム含む）」＋「家庭学習」の事です。

授業で学んだ事を家庭学習で取り組んでいく事が、学力をより確実にしていきます。




昨年度のPTA会報103号に『「子ども達の65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。」（キャシー・デビットソン氏；ニューヨーク市立大学大学院センター教授）、「今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。」（マイケル・A・オズボーン氏；オックスフォード大学准教授）、「近い将来、10人中9人は、今と違う仕事をしている。」（ラリー・ページ；Google（グーグル）の共同創業者）、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時には今は存在していない職業に就くだろう。」（キャシー・デビットソン；デューク大学）等など、多くの著名な学者や研究者は衝撃的な世の中の到来を予言しています。』と書きました。その通りになるとは限りませんが、携帯電話や内視鏡、自動改札機、宇宙旅行などがドラえもんの世界と考えられたのは、そう遠い頃ではありませんでした。家庭学習を含む勉強や学習は、世の中の激変に備えるためにも、自分の夢のサイズを広げるためにも、夢実現のためにも大切なのです。

**学力定着と向上には、家庭学習の他、
スマホ使用の見直しも必要です！**

本校児童の、スマホを含む情報端末の利用状況などについては、14日発行の校報864号でもお知らせしているとおりです。スマホやゲームの使用と学力の関係については、昨年度の校報でも紹介してきていますが、仙台市教育委員会のHPに、スマホと学力の相関についてのデータが掲載されていましたので紹介します。

市民の皆様へ 仙台市の子どもの学力とスマホの関係

スマホを長時間使っても勉強してれば大丈夫！って本当？

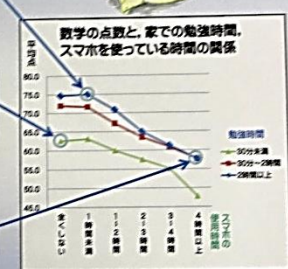


平均点 75点
2時間以上勉強して、スマホは1時間より少ない子です。

平均点 63点
勉強は30分もしないけど、スマホをしない(持っていない)子です。

平均点 58点
2時間以上勉強するけど、スマホも4時間以上、使ってしまう子です。勉強していない子よりも、点数が低くなってしまいます！

数字の点数と、家での勉強時間、スマホを使っている時間の関係



平成25年度仙台市標準学力検査等から

学習意欲の科学的に関するプロジェクト
東北大学加齢医学研究所・仙台市教育委員会 H28.3発行

スマホの使い過ぎは、お子さんの学力に悪い影響を与えます。「スマホとの付き合い方」について今のうちから、考えておきましょう。

なお、この資料はパソコン、スマホで、「学習意欲の科学的に関するプロジェクト」と検索すればご覧になれます。

また、東北大学の川島先生と横田先生の著作「2時間の学習効果が消える！ やってはいけない脳の習慣 ～小中学生7万人の実証データによる衝撃レポート」に、この検証結果がくわしく載っていますので、こちらも併せてごらんになることをお勧めします。

手ごたえと自信をつかんだ通信陸上

前担任の高橋恵実先生も応援に駆けつけてくれました



第33回全国小学校陸上競技交流大会・岩手県大会に出場した4人の6年生は、100mでは自己新、400mリレーではチーム新を出すなど、持てる力をしっかりと発揮してきました。全国大会出場は叶いませんでしたが、県内の強豪選手にも通用した部分もあり、9月の町陸上大会に向けて、手ごたえと自信、意欲をつかんだ大会となりました。今回の経験を今後にかけていきます。

スマートフォンを長い時間、使い続けると、使うのをやめても、成績は下がってしまいます。

使う時間が1時間より少ない子どもたち。成績は上がっています。

スマホを使い始めた子どもたち。1時間以上、使っていると、成績が下がってしまいます。



これまで、スマホを1時間以上、使い続けてきた子どもたち。使うのをやめたのに、成績が下がっています。

以上の結果から、私たち「学習意欲の科学的に関するプロジェクト」では、スマホは「どんなに長くても1時間以内に作る」ことを、強くすすめています。まずは大人が、子どもたちに「よいお手本」を見せましょう。



東北大学
加齢医学研究所
川島隆太 教授

詳しいことは、ホームページへ！

学習意欲の科学的に関するプロジェクト

検索